

(国語)

自分の思いを伝え合う子どもの育成をめざして
～「表現力」を育てる国語科指導法の工夫～

大阪市立神津小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では「豊かな心を育み、たくましく生きる子どもを育成する」を学校目標に掲げ、一人一人の児童が明るく生き生きと可能性をのばしていけるような教育活動に取り組んでいる。

平成25年度から、各学年の発達段階に応じた問題解決型の学習形態を身につけるための算数の研究を進めてきた。その結果、自ら解決するための考えや方法を見つけ、友だちと共に学び合おうとする学習意識が高まってきた。一方で、算数以外の学びの場面や日常生活においては、自分の考えを伝えたり、またそれらを友だちと深め合ったりする力が不十分であるという本校児童の課題が見えてきた。自分の思いや考えに自信がないこともその一因ではあるが、国語的に伝えるスキルが育っていないことが大きな要因だと考えられた。そこで、2年前から国語の研究に取り組むことにした。研究主題を「自分の思いを伝え合う子どもの育成をめざして」とし、さらに「『表現力』を育てる国語科指導法の工夫」を副題として、毎日の生活の中で生きてはたらき、各教科の基本となる国語の力を伸ばす研究を進めてきた。

2. 研究の趣旨

昨年度は、児童が楽しさを味わいながら読み取り、意欲的に表現する学習に取り組めるよう「物語文」に焦点をあて、読み取ったことを自分の言葉で表現し伝え合う力を育てていくことができるよう研究を進めた。

年度末の大阪市小学校学力経年調査（国語）において、読む能力についてはほぼ全市平均と同じ結果が出ているが、書く能力と言語事項においては全ての学年で大阪市平均を下回っていた。国語の研究もまだ2年目であることから、研究主題は継続していきながらも、この結果を踏まえて、本校の弱点である書く能力を高める工夫が不可欠であること、また話し合い活動での表現力もまだまだ高めていく必要があること、表現力を育てるという本校の研究の中心は大切にしつつ、言語能力をはぐくむ取り組みも進めていかななくてはならないことが明らかとなってきた。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 書く力の育成

- 毎回の国語の授業のはじめに、学年に応じた内容で、短時間の視写を取り入れる。
- 考えを一度は文章にして表現し、それから話し合い活動に取り組むようにする。

視点② 話す力の育成

- 家庭学習だけでなく、毎回の国語の授業においても、多様な音読活動を取り入れる。
- さまざまな話型やハンドサインの指導をする。

※ 視点①②を取り入れた授業のモデルケースを設定する。

- ・ 本時の学習のめあてをつかむ。
- ・ めあてにつながる主要発問を提示する。
- ・ 全文音読、部分音読をする。
- ・ 主要発問に対する自分の考えを書く。
- ・ ペアや小グループで考えを交流する。
- ・ 全体で考えを交流する。
- ・ まとめる。



視点③ 読書活動の充実

- 教材に関連する本を、単元と並行して読み進める。
- 第3次において、多読につながるように指導計画を構成する。
- 第3次で作成したリーフレットや本の紹介カードは、活用した図書とともに学校図書館に展示し、他学年児童の興味関心を引き出し、読書の幅が広がることをめざす。
- 「読書ノート運動」（主催：大阪読書推進会、朝日新聞社）に全校をあげて取り組む。
- 読書週間を設定し、学校図書館の開放を増やす。図書委員会による、しおりのプレゼントや絵本の読み聞かせを行う。

視点④ 言語環境の充実

- 掲示物を工夫し、言語環境を整えることで、言語事項に関する力の育成を図る。各学級では季節感のある詩を、学校全体では四季の俳句や子どもの俳句を掲示する。

4. 研究の成果と今後の課題

（1）研究の成果

- 音読が内容の理解を深め、自分の考えをしっかりと書くことができた。
- ワークシートやノートの書き方を工夫し、意欲的に表現することができた。
- 視写する作品を工夫することにより、興味・関心をもって取り組むことができた。速く正確に書けるようになり、原稿用紙の使い方も定着した。
- 授業での音読を増やし、声を出す力や表現力を身につけていくことができた。
- 自分の考えを書いた後にペアや小グループでの交流の場を設定した。多くの児童がいきいきと話すことができるようになった。
- ハンドサインや話型の提示が、児童が表現する力を伸ばすための支援になった。
- 並行読書、リーフレットなどにまとめたものの学校図書館での展示、「読書ノート」の活用が、さらに意欲的に読書しようとする児童の増加につながった。

（2）今後の課題

- 書く力の育成のため、さらにワークシートやヒントカードを工夫していく。
- 授業における音読にかかる時間を短縮するため、音読形態を工夫し、バリエーションをもたせていく。
- 意見交流では、ポイントを絞って机間指導をしたり、モデルケースを見せたりするなど、話し合いの質を高めるさらなる取り組みをしていく。